令和８年新年祝賀会・医事功労者表彰式・受賞祝賀会 琉球大学病院長ならびに琉球大学医学部長 退任・就任激励会

常任理事　玉城　研太朗

令和８年沖縄県医師会新年祝賀会・医事功労者表彰式・受賞祝賀会
琉球大学病院長ならびに琉球大学医学部長退任・就任激励会
式次第

日時：令和８年１月10日（土）
18：30～21：00
場所：ロワジールホテル那覇　天妃の間
司会 渡辺克江アナウンサー

1　開会のことば　稲田隆司 副会長
2　会長挨拶　田名　毅　会長
3　来賓祝辞　玉城デニー 沖縄県知事
4　第40回沖縄県医師会医事功労者表彰
・県知事表彰
・県医師会長表彰
・被表彰者代表挨拶
5　令和７年度受賞者功績紹介、琉球大学病院長ならびに琉球大学医学部長退任・就任激励
6　鏡開き
7　乾杯
8　祝宴・余興
9　福引き
10　閉会のことば　平安　明 副会長

去る１月10日（土）、ロワジールホテル那覇において、令和８年沖縄県医師会新年祝賀会・医事功労者表彰式・受賞祝賀会・琉球大学病院長ならびに琉球大学医学部長退任・就任激励会が開催され、会員並びにご家族、ご来賓併せ190名余りの方々にご参加いただいた。

医事功労者表彰式では、県知事表彰３名、県医師会長表彰59名の先生方が受賞された。

始めに稲田隆司副会長の開会の辞が述べられ、その後田名毅会長から新年の挨拶と、玉城デニー沖縄県知事よりご挨拶を頂戴した。

■田名毅沖縄県医師会長挨拶

あけましておめでとうございます。

本日は新春を寿ぐ沖縄県医師会新年祝賀会・医事功労者表彰式・受賞祝賀会・琉球大学病院長ならびに琉球大学医

学部長退任・就任激励会を開催いたしましたところ、玉城デニー知事をはじめ多数のご来賓の方々、会員並びにご家族の皆様方にご参加いただきまして衷心より感謝申し上げます。

さて現在、医療界においては、物価・賃金の急激な上昇が続く中、医療機関や介護施設等の経営は全国的にも厳しい状況が続いております。医療現場では、日々の診療や介護の提供を維持することに、これまで以上の努力が求められているのが実情であります。

こうした状況を踏まえ、国においては、医療・介護現場の声を受け止める形で、昨年11月に2025年度補正予算として「医療・介護等支援パッケージ」が計上されました。これは、医療提供体制を支える上で大変意義のある措置であり、医療現場としても大きな支えになるものと受け止めております。今後は、この補助金に加え、今回大幅に拡充された「重点支援地方交付金」についても医療機関の物価高騰対策を支援してもらう上で大変ありがたいことだと考えております。

さらに、補正予算に続き、2026年度診療報酬改定においては、本体部分を3.09%へ引き上げる方針が示されました。賃上げや物価上昇への対応を意識した今般の改定が、医療機関の経営基盤の安定や人材確保の一助となり、安心・安全な医療の提供につながることを期待しております。

一方、2040年頃を見据えますと、高齢者人口のピークと生産年齢人口の減少が同時に進行することが予測されております。本会といたしましても、沖縄県をはじめ関係機関・関係団体の皆様と連携を密にし、地域の実情を踏まえた持続可能な医療・介護提供体制の構築に向けて、引き続き取り組んで参る所存でありますので、皆様方のご理解とご協力を賜わりますようお願い申し上げます。

この後、引き続き行われます第40回沖縄県医師会医事功労者表彰式では、県知事表彰に3名、県医師会長表彰に59名の先生方が表彰されます。特に、慶祝表彰におかれましては、米寿の先生が8名、喜寿の先生が38名おられることは誠におめでたい限りであり、沖縄県医師会の誇りであります。受賞者の皆様におかれましては衷心よりお慶び申し上げます。

また、本日は、令和7年度に各種表彰を受賞された先生方の祝賀会も併せて執り行うこととしており、のちほど、先生方のご功績を紹介させて頂く予定です。さらに、琉球大学病院長ならびに琉球大学医学部長の退任・就任激励会も執り行いますので、本日ご参集の皆様と共に先生方の労をねぎらい、引き続き私どもにご指導、ご助言を賜り、県医師会の会務運営にお力添えを賜りますようお願い申し上げたいと存じます。

結びに、新年が皆様にとりまして、希望に満ちた明るい年となりますことをご祈念申し上げ、甚だ簡単ではございますが、年頭のご挨拶といたします。

■玉城デニー県知事挨拶

はいさい　ぐすーよー、いいそーぐぁちでーびる。

新年明けましておめでとうございます。

沖縄県医師会新年祝賀会・医事功労者表彰式・受賞祝賀会・琉球大学病院長並びに琉球大学医学部長退任・就任激励会の開催にあたり、御挨拶を申し上げます。

沖縄県医師会におかれましては、日頃から本県の保健医療行政に御支援、御協力を賜り、心から感謝申し上げます。

本日、沖縄県医事功労者知事表彰を受賞されました大屋祐輔様、玉城和光様、久貝忠男様、誠におめでとうございます。

お三方の受賞は、地域において住民の健康増進や医療提供体制の確保に取り組まれた長年の御功績が認められたものであります。

加えて、沖縄県医師会長表彰を受けられました皆様にも、この度の栄えある受賞に対し、心からお祝いを申し上げます。受賞された皆様におかれましては、長年にわたって地域医療に従

事され、沖縄県の医療の質の向上に多大な御尽力をいただきました。

さらに、昨年に日本医師会最高優功賞、沖縄県功労者表彰、叙勲を受賞されました皆様におかれましても、この度の受賞、誠におめでとうございます。先生方が強いリーダーシップを発揮され、県民の生命と健康を守り抜いてこられましたことに深く敬意を表します。

また、本日は琉球大学病院長並びに琉球大学医学部長退任・就任激励会が併せて執り行われております。退任されました大屋祐輔様、筒井正人様におかれましては、本県の医学・医療の発展に御尽力いただきました。新たに、就任されました鈴木幹男様、中西浩一様におかれましては、その豊富な経験と高い見識をもって、教育・研究・臨床のさらなる充実を推し進めていただき、地域医療の発展に取り組んでいただけることを御期待申し上げます。

さて、県では、5疾病・6事業、在宅医療及び医療従事者の養成・確保などに関する施策を定めた第8次沖縄県医療計画のもと、地域医療の充実を進めるとともに、これから始まる新たな地域医療構想の策定を通じて、入院から外来・在宅・医療介護連携まで一体的な医療連携体制を構築し、地域包括ケアシステムのさらなる深化を目指してまいります。

本県の取組の推進にあたりましては、医師会の皆様との連携が、必要不可欠なものと考えておりますので、なお一層の御支援、御協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、本日受賞されました皆様のより一層の御活躍と、沖縄県医師会のますますの御発展並びにお集まりの皆様の更なる飛躍を祈念申し上げ、お祝いの言葉といたします。

くとぅしん　ゆたさるぐとぅ　うにげーさびら。

第40回沖縄県医師会医事功労者表彰

引き続き、医事功労者表彰に移り、糸数公保健医療介護部長（玉城知事ご名代）から沖縄県知事表彰（3名）の授与、田名会長から県医師会長表彰の授与が行われた。県医師会表彰については、受賞者が59名と多数おられることから、ご出席いただいた先生方のお名前をご紹介させていただき、慶祝表彰を代表して中山勲先生、

県知事表彰を授与される大屋先生

県知事表彰を授与される玉城先生

県知事表彰を授与される久貝先生

医事功労表彰を代表して宮城雅也先生に授与された。その後、受賞者を代表して県知事表彰を授与された大屋祐輔先生から挨拶があった。

■大屋祐輔先生受賞者代表挨拶

このたびは、沖縄県医事功労者知事表彰を受けましたこと、たいへん栄誉なことと存じます。これまでともに歩んできた仲間や、ご支援、ご鞭撻をいただきました関係者各位に対して、この場をお借りして心より感謝を申し上げます。

同時に表彰されました元県立中部病院の玉城和光先生と元県立北部病院病院長の久貝忠男先生と私は同世代であり、同時期に院長を務めましたので、外的要因に対して、力を入れて対応したことについては共通しています。一つは、新型コロナ感染症に対する対応です。中部病院、北部病院、琉大病院はそれぞれ県及び地域での役割が異なりますが、病院職員を取りまとめ、励ましながら、また県医師会や行政とも連携し、それぞれの病院の役割を全うしてきました。また、働き方改革に関しても同様であり、それぞれ残業時間の多い病院での改革で、困難が多いところ、しっかりと進めてきていると思います。

今回の表彰に関しては、自分なりに４つの業績を上げたいと思います。

１つめは26ショックに始まった沖縄県の健康問題に早期より取り組んできたことです。大学人というアカデミックの立場から長寿崩壊の要因分析を行い、県民への啓発を行い、そして沖縄の野菜を用いた健康増進事業を立ち上げてきました。

２つめは、人材育成のために、医師会や沖縄県とともに、日本で最初となる本格的な医療訓練施設である、おきなわクリニカルシミュレーションセンターを作り、それに関連して県内の人材育成のシステムに寄与してきたことです。また、同時に受賞された玉城和光先生とは、琉球大学と中部病院との教育活動における関係強化について一緒に取り組んできました。たとえば、琉球大学医学部学生の臨床実習の県立中部病院での大規模な受け入れを実現することができました。この県立中部病院における琉球大学の大がかりな学外臨床実習の取り組みは全国的にも好事例とされています。地域のことを理解して地域で働く医師作りについて、学生時代から臨床研修の時期まで継続して同じ方針で学ぶということは、沖縄全体の人材育成にとってとても大きなことと考えています。

３つめは、沖縄県医師会理事および常任理事として、県医師会の運営にかかわらせていただいたことです。業務としては学術担当として、とくに人材育成について関わりました。沖縄県から委託した研修医確保事業や人材育成事業について、沖縄県の３つの臨床研修群の協力を得ながら実施してきました。

４つめは、琉球大学病院と医学部の西普天間移転を、琉球大学理事・病院長として担当したことです。さまざまな課題がありましたが、多

県医師会長を授与される中山先生

県医師会長を授与される宮城先生

くの皆さんのご支援のもと、昨年の始めになんとか成功裏に終えることができました。現在、北部地域において北部基幹病院設立とその運営のプロジェクトに携わっていますが、琉球大学病院移転の経験が役立っていると思います。なお、今回、一緒に受賞された久貝忠男先生は、この北部基幹病院の計画の原型を作られ、昨年まで強いリーダーシップで全体計画を引っ張って来られていました。

最後になりますが、私がこれまで実施してきたことは、多くの関係者のご協力があってのことです。23年前に琉球大学の助教授として沖縄に赴任した私を、暖かく受け入れていただき、仲間として一緒に仕事をさせていただいたこと、たいへん感謝しております。その恩に報いるためにも、現在の北部のプロジェクトをしっかりと進めたいと思います。

引き続き開催した受賞祝賀会では、令和7年度に各種表彰を受賞された先生方のご功績を紹介し、これまでのご尽力に深く敬意を表した。

【令和7年度各種表彰受賞者】

日本医師会最高優功賞受賞
真栄田　篤彦　先生
沖縄県功労者表彰受賞　當山　護　先生
春の叙勲 瑞宝小綬章受章　宮城　敏夫　先生
春の叙勲 瑞宝双光章受章　幸地　賢治　先生
秋の叙勲 瑞宝小綬章受章　稲福　恭雄　先生
秋の叙勲 瑞宝双光章受章　松岡　政紀　先生

令和7年度沖縄県医事功労者知事表彰受賞

NO	会員名	受章理由	地区	推薦地区
1	大屋　祐輔	医学・医術の向上発展に尽力	琉 大	地区医師会推薦
2	玉城　和光	公的機関の病院長、副院長8年以上	公務員	地区医師会推薦
3	久貝　忠男	公的機関の病院長、副院長8年以上	公務員	地区医師会推薦

令和7年度沖縄県医事功労者医師会長表彰受賞

NO	会員名	受章理由	地区	推薦地区
1	石津　靖	米寿（数え年88歳）	南 部	県医師会推薦
2	宮城　征四郎	米寿（数え年88歳）	公務員	県医師会推薦
3	中山　良有	米寿（数え年88歳）	那 覇	県医師会推薦
4	石津　宏	米寿（数え年88歳）	琉 大	県医師会推薦
5	中山　勲	米寿（数え年88歳）	中 部	県医師会推薦
6	嶺井　進	米寿（数え年88歳）	浦 添	県医師会推薦
7	平安山　英達	米寿（数え年88歳）	南 部	県医師会推薦
8	大山　朝弘	米寿（数え年88歳）	中 部	県医師会推薦
9	仲里　博彦	喜寿（数え年77歳）	那 覇	県医師会推薦
10	新垣　安男	喜寿（数え年77歳）	那 覇	県医師会推薦
11	成富　研二	喜寿（数え年77歳）	琉 大	県医師会推薦
12	高江洲　均	喜寿（数え年77歳）	宮 古	県医師会推薦
13	金城　福則	喜寿（数え年77歳）	浦 添	県医師会推薦
14	伊波　興広	喜寿（数え年77歳）	那 覇	県医師会推薦
15	西銘　圭蔵	喜寿（数え年77歳）	北 部	県医師会推薦
16	松浦　雅人	喜寿（数え年77歳）	那 覇	県医師会推薦
17	椎名　行夫	喜寿（数え年77歳）	南 部	県医師会推薦
18	與那嶺　豊	喜寿（数え年77歳）	南 部	県医師会推薦
19	下地　輝子	喜寿（数え年77歳）	宮 古	県医師会推薦
20	奥平　忠夫	喜寿（数え年77歳）	宮 古	県医師会推薦
21	玉城　政弘	喜寿（数え年77歳）	中 部	県医師会推薦
22	真栄田　篤彦	喜寿（数え年77歳）	那 覇	県医師会推薦
23	山城　勝美	喜寿（数え年77歳）	那 覇	県医師会推薦
24	宮里　善次	喜寿（数え年77歳）	中 部	県医師会推薦
25	照喜名　重治	喜寿（数え年77歳）	那 覇	県医師会推薦
26	松本　廣嗣	喜寿（数え年77歳）	公務員	県医師会推薦
27	長嶺　勝	喜寿（数え年77歳）	中 部	県医師会推薦
28	伊是名　博之	喜寿（数え年77歳）	那 覇	県医師会推薦
29	原　信一郎	喜寿（数え年77歳）	那 覇	県医師会推薦
30	稲福　恭雄	喜寿（数え年77歳）	那 覇	県医師会推薦

さらに、琉球大学病院長ならびに琉球大学医学部長退任・就任激励会も執り行い、先生方の今後一層のご活躍を祈念した。

【新旧琉球大学病院長・医学部長】

前　琉球大学病院長　大屋　祐輔　先生
現　琉球大学病院長　鈴木　幹男　先生
前　琉球大学医学部長　筒井　正人　先生
現　琉球大学医学部長　中西　浩一　先生

■喜納育江琉球大学学長乾杯挨拶

沖縄県医師会の皆様、ご来賓の皆様、明けましておめでとうございます。また、この度、医事功労者として表彰を受けられた皆様におかれましては、医療分野における長年のご貢献と後進育成のご貢献に対し、心よりお祝いを申し上げます。誠におめでとうございます。

また本日は、琉球大学の新旧病院長ならびに新旧医学部長への温かい激励の言葉もいただきまして、大学長として心より感謝申し上げます。

沖縄県は島しょや過疎に由来する地域特有の医療的な課題を抱えておりますが、地域医療の質の保障とさらなる向上を目指す上でも、県医師会の先生方を含め、県内の医療関係者の皆様の献身的なご貢献は不可欠であると考えています。昨年開始しました琉球大学病院と、今年度西普天間で新たにスタートしました琉球大学医学部の方も、その一翼を担う県内医療機関を始めとする皆様と共に精進して参る所存でございます。

人命に関わるお仕事に従事する皆様のご苦労は、想像を絶するものですが、皆様におかれましては、これからもご自身のご健康にも留意して、引き続き沖縄の地域医療や医療活動にご尽力を賜わりますようお願い申し上げます。

沖縄県医師会、そして沖縄県の地域医療の発

令和７年度沖縄県医事功労者医師会長表彰受賞

NO	会員名	受章理由	地区	推薦地区
31	中山　朝行	喜寿（数え年 77 歳）	南 部	県医師会推薦
32	崎山　慧史	喜寿（数え年 77 歳）	中 部	県医師会推薦
33	新垣　義孝	喜寿（数え年 77 歳）	北 部	県医師会推薦
34	嘉手苅　勤	喜寿（数え年 77 歳）	南 部	県医師会推薦
35	与儀　洋和	喜寿（数え年 77 歳）	中 部	県医師会推薦
36	井関　邦敏	喜寿（数え年 77 歳）	琉 大	県医師会推薦
37	玉那覇　康一郎	喜寿（数え年 77 歳）	那 覇	県医師会推薦
38	名嘉真　武司	喜寿（数え年 77 歳）	北 部	県医師会推薦
39	中山　仁	喜寿（数え年 77 歳）	中 部	県医師会推薦
40	比嘉　良博	喜寿（数え年 77 歳）	北 部	県医師会推薦
41	島袋　淳吉	喜寿（数え年 77 歳）	中 部	県医師会推薦
42	上里　博光	喜寿（数え年 77 歳）	南 部	県医師会推薦
43	徳田　章哲	喜寿（数え年 77 歳）	北 部	県医師会推薦
44	名嘉村　博	喜寿（数え年 77 歳）	浦 添	県医師会推薦
45	徳山　清之	喜寿（数え年 77 歳）	浦 添	県医師会推薦
46	古謝　将常	喜寿（数え年 77 歳）	那 覇	県医師会推薦
47	島尻　佳典	地区医師会役員歴 8 年以上	浦 添	県医師会推薦
48	玉城　研太朗	地区医師会役員歴 8 年以上	那 覇	県医師会推薦
49	佐久本　薫	医療事故調査支援委員会 10 年以上	公務員	県医師会推薦
50	宮城　雅也	医療事故調査支援委員会 10 年以上	公務員	県医師会推薦
51	竹井　太	地域医療委員会 10 年以上	宮 古	県医師会推薦
52	新垣　元	医療事故調査支援委員会 10 年以上	中 部	県医師会推薦
53	髙山　義浩	医療事故調査支援委員会 10 年以上	公務員	県医師会推薦
54	岩田　智治	学校医歴 15 年以上	中 部	地区医師会推薦
55	山城　一純	学校医歴 15 年以上	中 部	地区医師会推薦
56	新里　脩	学校医歴 15 年以上	中 部	地区医師会推薦
57	照屋　武	学校医歴 15 年以上	南 部	地区医師会推薦
58	砂川　憲政	学校医歴 15 年以上	那 覇	地区医師会推薦
59	畑　芳夫	学校医歴 15 年以上	中 部	地区医師会推薦

展と、会場にお集まりの皆様の新年のご健勝とご多幸を祈念して乾杯の音頭を取らせていただきます。

その後、生田流箏曲 沖縄筑紫会の宮城歌那乃さん、伊波歌那世さん、玉城歌和彩さんによる箏演奏が披露され、祝宴が和やかに行われた。

結びに、平安明副会長より皆様にとって良い年であるようにと祈念する旨の挨拶を行い会を閉じた。

■受賞の喜び

「沖縄県医事功労者知事表彰を受賞して」

前 沖縄県立中部病院長　玉城　和光

この度、沖縄県医事功労者知事表彰を受賞することとなりました。この賞は私ひとりの力ではなく、沖縄県立中部病院（以下、中部病院）のレガシーである教育文化を共に先人達から継承し、大切にし、守り抜いてきた仲間と応援してくださった方々のおかげです。心より感謝申し上げます。

中部病院の使命は、“離島・僻地を１人で守れる守備範囲の広い医師”を育成することで沖縄県全地域の医療を守ることにあります。中部病院の理念、“私たちは、すべての県民が、いつでもどこでも、安心して、満足できる医療を提供します”、その中に目指す姿が謳われておりますが、それを実現させるために上記の使命が生じてくるのは自然なことと言えるでしょう。

中部病院における人材育成の歴史を簡単に振り返ってみますと、卒後医学臨床研修が開始された時のハワイ大学スタッフたちは当時の日本でほとんど行われていなかったグループ診療を導入しています。その目的は Peer Review を徹底し、機能させることで診療レベルを世界水準に保つことにありました。Peer Review とは経験や知識レベルの異なる医師・看護師・コメディカル等が集まって忌憚のない意見を出し合い、議論し、患者それぞれに最適と思われる治療方針を決定していくことを言います。彼らはグループ皆の診療レベルを向上させるために Peer Review が必要だと考えていたのです。

診療レベルの向上、それは皆にとって大きな喜びであり、それが患者のためになるのであれば、なおさらです。もちろん、それは研修医にとっても大きなモチベーションとなり、彼らは患者のために一生懸命頑張り、尽くすようになります。Peer Review がうまく機能すると、グループ皆が患者のために色々なことを調べるようになります。それぞれの経験と知識レベルで、最先端の情報から意外と知られていない事柄まで調べられてきます。これらを忌憚なく出し合うことで良い知恵が生まれ、最適な治療に繋がっていくのです。医師も看護師もコメディ

左から日本医師会最高優功賞を受賞された真栄田先生、
沖縄県功労者表彰を授賞された當山先生、
瑞宝小綬章を受章された宮城先生、
瑞宝双光章を受章された松岡先生

左から琉球大学医学部長 中西先生、
前 琉球大学医学部長 筒井先生、
琉球大学病院長 鈴木幹男先生、
前 琉球大学病院長 大屋先生

カルも事務方も、皆が積極的にディスカッションへ加わり、互いにフィードバックを行うことで一人ひとりが成長し、提供する医療の質だけでなく教育の質も高めることに繋がるのです。

私は「人を教育し、成長を愛でること」が人間の根源的な喜びであることを信じて疑いません。医療界が困難の中にある今、Peer Review を徹底したグループ診療を行う伝統の種が 59 年前に蒔かれ、それが脈々と現在も続いている意義の大きさを評価する時が来たと思っております。だからこそ、皆様には、中部病院のレガシーである教育文化を大切にし、守り抜いていただきたいと切に願う次第です。

「沖縄県医事功労者知事表彰を受賞して」

前 沖縄県立北部病院長　久貝　忠男

この度は、このような栄えある功労者賞を賜り、心より感謝申し上げます。私と同時に受賞されたお二人の方々、ならびに過去の受賞者の顔ぶれを見るとそうそうたる方々が名を連ねています。わが身を振り返れば身に余る光栄であります。これもひとえに、日頃からご指導いただいた皆様、そして共に困難を乗り越えてきた同僚の皆様のおかげと存じます。

受賞の理由を回想するに、私は琉大病院とその関連病院を 8 年間往復した後、県立那覇病院から南部医療センター・こども医療センターを経て、北部病院まで 31 年間公務員医師として勤務しました。最後の 8 年間は北部病院で副院長、院長として定年まで勤めました。その間 3 期 6 年間は沖縄県公務員医師会会長、同時期に県医師会の理事を務めました。賞はそれに対する功労と受け取っています。

北部病院での副院長・院長の 8 年間勤務は多くの出来事がありました。新型コロナ対策には手を焼きました。また、慢性的な北部病院の医師不足も頭痛の種でした。同じ県立でありながら南部との違いを痛感しました。院長自らが先頭に立ち医師探しに奔走する毎日でした。明らかなことは北部の 2 病院統合はその延長線上にあるということです。

赴任の 4 日前の 3 月 27 日に北部基幹病院設立の総決起大会が開かれています。病院統合の歴史は古く、2007 年頃から話題になっています。理由は様々ですが、医師不足、医療技術の乗り遅れが北部の住民に対して、不利性を強いていることは間違いないでしょう。患者は北部圏域外へ流出します。

また似たような 2 つの急性期病院が“パイ”を取り合うのも非効率です。統合は県内医療の“南北格差”をなくす絶好の機会です。①医師不足、②地域完結、③経営の効率化の 3 つの解決策を提示します。7 年間の院長を務めたおかげで多くの知古も得ました。12 市町村の首長さんとは色々な会合等で言葉を交わすことができました。これも人口 10 万人というコンパクトな北部ならではのメリットであったと思います。

現下の病院経営を取り巻く環境は厳しく、次年度診療報酬は上がるものの物件費、人件費は高騰し予断を許しません。国民負担も少なく、病院も潤う。そんなウィンウィンになるような最適解があると思います。この受賞を励みに、今後も一層精進し、社会の発展に貢献できるよう努めてまいります。

最後に、定年まで特に最後の 8 年は私の相談相手となり院長職を支えてくれた妻に心から感謝したいと思います。

「日本医師会最高優功賞を受賞して」

西町クリニック　院長　真栄田　篤彦

この度は、日医からの表彰に心より御礼を申し上げます。永年に渡り那覇市医師会、並びに沖縄県医師会への執行部役員としての責務を果たしてきたことへの表彰と思います。

那覇市医師会では、平成 8 年に當山護会長の元で初めて医師会理事に就任して初仕事は学校保健と予防接種関連でした。

特に、予防接種事業は各自治体が主体として予算から接種実施迄行います。当時は全てが集団接種で、協力医師会員が複数で出務しワクチン接種を行なっていました。私は那覇市と協議して、いつでもどこの接種協力医療機関でもワクチン接種が出来るようにと交渉しました。麻疹ワクチンからスタートして、更には近隣市町村や地区医師会の協力を得ながら麻疹以外のワクチンも対象となり利便性も高まったと思います。当時、秋田県は予防接種事業主体は各市町村では無く、県が一括していたので、常に全県レベルで同価格で実施だったのを、沖縄県でも導入出来ないか申し入れたが、それは無理でした。

又、同時期に沖縄県が長寿県としての宣言を當山那覇市医師会長が頑張って全国に発信したのを強烈に思い出します。

私は那覇市行政に当時の翁長雄志市長に交渉して、学校保健事業で小児生活習慣病の高度肥満予防健診事業をスタートして今日まで継続しています。

あの頃の沖縄県は新生児死亡率が高く、糸数健那覇市医師会長が産婦人科医会と連携して未熟児病児、新生児を NICU 医療機関へスムーズに入院出来るシステムを構築するべく連携委員会をスタートしました。幸い小児科医の私は当時の県立那覇病院 NICU 担当医の宮城雅也先生と連携して那覇市医師会事務局がキーセンターとしてスタートし、当初は那覇南部の産科医療機関から今日では全県レベルで新生児ネットワークが構築され、新生児死亡率の低下に貢献しています。糸数健先生の功績は素晴らしいと評価されております。

尚、約 25 年前になりますが、沖縄県で母子総合医療センター設立推進協議会なる市民運動に前述の宮城雅也先生と一緒に私も県医師会から参画し、稲嶺惠一元県知事に要請して、県としても高度医療中核病院設立構想が有り、目標が私達市民運動と一致し、南部医療センター・こども医療センターが出来ました。高度医療を受ける病児の親が廉価で安心して宿泊出来る施設（がじゅまるの家）を沖縄電力百添会が建築し県に寄贈、沖縄県保健医療福祉事業団からわらびの会へ委託運営であっという間に 20 年経過しました。

その間にこども医療センターの小児救急医療がコンビニ化で逼迫する中、県医師会、県小児科医会、県看護協会で #8000 事業も立ち上げしました。

今日まで、県行政、市行政、県医師会、市医師会、その他多くの関連団体のご協力によって達成できたと皆様に感謝申し上げます。

「沖縄県功労者表彰受賞のお礼」

当山美容形成外科　當山　護

感謝 !!

受賞後日、私の功績概要に目を通してみました。医師会ご推薦内容に興味があったのです。そこには浅学菲才なわが身には過分なる役員当時の業績記載がありました。県民予防、検診事業や看護学校建設事業等々です。

実はこれらに伴うものは地域住民の健康をあずかる医師会役員としての当然の仕事です。多くの医療人や行政の力強い後押しがあってのものなのです。恐縮する内容は改めて私一人への受賞ではなく県医師会を代表としての名誉と受け止めており、ここに深く感謝の意を表させて頂きます。

10 年間の軌跡

さて！今回の県医師会報への寄稿依頼を機にうろ覚えながら医師会館移転の小さな歩みを記載してみます。私は 1996 年から 6 年間を那覇市医師会長、2002 年から 4 年間を県医師会副会長、あわせて 10 年間要職を賜りました。この期間はまさに那覇市と県医師会拠点となる土地探しと会館建築への仕事が主体となっています。

1993 年那覇市東町の准看護学校を豊見城へ移転した当時の担当理事は私だったのですが…。

残された旧那覇市医師会館の処遇問題が残ります。当時、糸数会長は必至で移転先を模索しました。現在地では建ぺい率の関係で検診事業

等厳しいとの結論でした。執行部の最後の決定が老人保健施設を兼ねた西原町の土地でした。会員間でも那覇市医師会が他の地区に移転して良いのか？賛否が生じました。物事のおさまりは他医師会の強い反対でした。

糸数執行部は大変な苦悩の末終わるのです。引き継いだ私も土地探しから始まります。自衛隊跡地や与儀のゆうな荘跡、有力だったのが那覇市の新都心でした。当時の親泊市長の配慮などで略々決まりかけたのですが、借地契約の難航やインフラ整備の遅れ、交通事情で断念します。然し、この難渋した長期の懸案作業は無駄には終わらなかったのです。ひとつは建ぺい率の見直しです。建物の建て方によって余裕ある会館ができると再結論を得るのです。そして東町の現在に伊集担当理事の猛烈な働きで完成します。もうひとつの出来事が県医師会館の移転作業へと加わります。私は6年目の任期を終え県の副会長へと変わります。当時の県医師会館は土地は自分たちのものなのに浦添看護学校の間借りの拠点でした。これは歴代県医執行部の重要課題でした。稲冨新執行部もこの難題に悩みました。当時は福祉保健部との土地等価交換での折衝を続けていたのです。私共、過去の土地探しの時期、某県議の助言を思い出したのです。「土地の等価交換であれば担当部署が違う。総務部に当たれ！」、事は思いの外スムーズに運びました。後日総務部担当より首里の農場試験場跡地を提案され視察に行きます。更にその後福祉保健部が計画していた南部の医療施設ゾーン、南風原町新川地区に絶好の現在地へ県医師会館が建つのです。建設計画は稲冨執行部を引き継いだ宮城執行部へと移っていくのです。完

「瑞宝小綬章を受章して」

社会医療法人仁愛会　宮城　敏夫

今回、浦添市医師会長から叙勲の推薦をいただくにあたり、県医師会から数年前に叙勲推薦を頂きましたが辞退していることをお伝えいたしました。腰痛は改善していますが上京はできませんと申し上げましたところ、問題はないので推薦しますとのことで有難く了解した次第です。経歴については市医師会の方で詳細に調べてくださいました。何から何までお力添えをいただきました事に対し深甚なる感謝を申し上げます。叙勲受章者に正式に決まったことの知らせを受けた時には仁愛会がやってきたことを社会は評価してくれたんだと拳を握りしめて“やったー！”と振る舞い同時にこみ上げる熱いものを全身で感じていました。市医師会から勲章勲記をお届けしますとの連絡があり洲鎌会長、宮良副会長、照屋副会長、平良事務局長、事務員の皆さんがこられました。洲鎌会長から推薦の経緯や過分なお褒めの言葉を頂きました。私からは推薦を頂いたこと、事務方の皆さんには大変に手を煩わせたことに感謝の意を申し上げました。この叙勲には宮城敏夫の功績を讃えていますが、今日の発展を顧みますと理事の皆

余興：箏演奏

福引き抽選会：伊集広城先生の娘さん、結香さん

さん、尽力していただいた職員、医療関係者更に病院事業計画当初から私を支えてくださった法人外部の方々の存在があって今の繁栄があることを思えば決して私一人に与えられたものではないと受け止めていると申し上げました。銘苅理事長、伊志嶺病院長、藏下副院長、林常務理事等も集合していましたので思いを伝える良い機会となりました。最後に記念写真を撮りましたが人生最高にいい写りとなりました。祝賀会の話がありましたが私はその気にはなれず、創業者宮城敏夫からの感謝会を開催したところ多くのOB・OG等が集まってくれました。悦びを分かち合うことができ感激いたしました。

仁愛会は4つの理念を掲げています。常に事業化や運営方針は理念の具現化であらねばならないと考えてやってきました。その結果が瑞宝小綬章の栄に浴することになったと考えております。時代が変わり社会の価値観が変わり国政が変わろうとも自信をもって前進できます。今回の一連のイベントから大いなる力を仁愛会は頂きました。地域社会の一員として役割を明確にし、医療機関そして地域社会と連携しながら進んでまいります。

「瑞宝小綬章を受章して」

沖縄南部療育医療センター　稲福　恭雄

今回の受賞の栄誉は私にとりまして身に余る光栄でした。

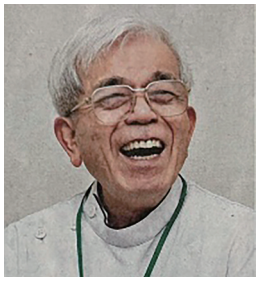
振り返ってみれば①平成14～15年頃の抗ウイルス薬やワクチンなどの治療薬・ワクチンなどの治療及び予防法が確立されていなかったSARSの県内への侵入防止、②介護保険法施行後の波照間島での診療所に隣接した高齢者を含む人々が集まれる「すむずれの家」のパイロットスタディ、③地域インフラ整備が主な振興予算から待機児童解消のためにも使えるように沖縄開発庁と協働してきた事、④基幹病院構想と並行する形で新川地区に県医師会、看護協会、薬剤師会、小児保健協会などが連携を取りやすいような各会館が近接した医療ゾーンとする事、⑤国際協力事業団（JICA）への協力等々、これまで保健・医療・福祉分野で県医師会及び各地区医師会・公務員医師会・県庁職員など直接、或いは間接的に協力しながらコツコツと仕事をしてまいりました。これらも偏に支えていただいてきた数多くの方々のお陰があったからこそ受賞したものと思っており心から感謝しております。

不肖の小生ではありますが、これからも京セラやKDDIを設立65歳で出家し先年亡くなられた稲盛和夫先生の「人間として正しいか正しくないか、よいことか悪いことか、やっていいことかいけないことか」に集約される「ヒトとして正しいことをする」との言葉を忘れずに微力ながら仕事をしていきたいと考えております。「老兵は去り行くもの」と思わずに今後とも変わらぬご支援の程よろしくお願いいたします。

有難うございました。

「瑞宝双光章受章に寄せて」

かんな病院　名誉院長　松岡　政紀



このたび、沖縄県北部地域医療への長年の従事と医師会活動への関わりを評価していただき、瑞宝双光章を受章することとなりました。身に余る光栄であり、心より感謝申し上げます。

私が医師として歩んできた年月の多くは、沖縄県北部の地にありました。医療資源が十分とは言えない環境の中で、日々の診療に携わりながら、地域医療をどのように維持していくかを考え続けてきたように思います。ただ、当時は特別な使命感を持っていたというよりも、その時々に求められる役割を果たしてきただけであったというのが正直なところです。

医師会活動に関わるようになったのも、強い志があってのことではありませんでした。必要とされる場があり、声をかけていただき、周囲に支えられながら務めてきたに過ぎません。表に立つよりも、調整や裏方として関わることが多かったように記憶しています。

沖縄県北部の地域医療は、決して一人の医師で成り立つものではありません。多くの医師、医療スタッフ、行政、そして地域住民の皆さまとの協力があって、はじめて継続していくことができます。医療を取り巻く制度や環境が変化する中で、医師会という組織が果たす役割の大きさを、活動を通じてあらためて実感してきました。

日々の診療を振り返ると、十分であったかと自問する場面は少なくありません。反省すべき点も多く、今なお学ぶことばかりです。それでも、沖縄県北部の一員として、地域の中で医療に携わることができたことは、医師として大きな支えとなってきました。

今回の受章は、私個人の功績というよりも、これまで沖縄県北部の地域医療を支えてこられた多くの諸先生方、医療従事者、関係機関の皆さま、そして医師会全体への評価であると受け止めております。これまでご指導、ご支援を賜りましたすべての方々に、深く感謝申し上げます。

今後も、沖縄県北部の地域医療が次の世代へと確実に引き継がれていくことを、心より願っております。

■ご挨拶

「琉球大学病院長退任のご挨拶」

前　琉球大学病院長　大屋　祐輔

2019年4月から2025年3月の6年間、琉球大学病院の病院長を務めさせていただきました。同時に、沖縄県医師会では理事や常任理事も務めさせていただきました。この期間は医師の人生として最も充実したものとなりました。

2018年度の医療法の改正により特定機能病院はその要件として、安全管理に係るガバナンスの確保を目的に、病院長を選ぶにあたり、選考委員会を設置し、そこで「医療安全管理業務の経験」や「当該病院内外での組織管理経験」などを有する人物を、病院長選挙によることなく選ぶことが望ましいとなりました。そのような事情から、琉大病院でも新しい病院長選考制度により、院長候補者選考会議による審議や推薦、学長による面談を経て、病院長に選んでいただきました。

また、同時に、経営に責任を持つ体制のために、大学の理事としての役割も同時に行うこととなりました。このような制度の変更でスタートした病院長でしたので、さまざまな仕組みや規約、そして運営など、新たに決めながらのよちよち歩きの病院長生活が始まりました。もちろん、大学病院自身の使命である、高度医療の提供とともに、その背景として必須である医療安全の更なる充実や研究の推進など、取り組むべき大きな課題に対して、全力で取り組みました。

加えて、令和6年度末に予定されていた、キャンパス移転、とくに新病院新築・開設へ向けて、本格的に取り組むことになりました。しかし、この移転事業は、山も谷も相当に険しく、実施体制の意思疎通を計ること、予算の確保、社会や企業との付き合い、広報活動、行政との共同作業など、普通の病院長ではまずすることがない、様々な経験をさせていただきました。どうなるのかとの絶望的な状況の中でも、大学内の仲間や事務部門の活躍、また、県医師会のご支援があったため、そう深刻な気持ちにもならず、「なんくるないさ」で進みました。なんとか予定どおり建物も完成し、病院の引っ越しも無事終わり、大役を務めることができました。

そのほか、病院長在任中は、その約半分をコロナ対策に当たりました。幸いなことに副病院長や感染対策室のメンバー、そして看護部の献身的な活躍に助けられ、クラスターは多少、出たものの、深刻な状況にならず、切り抜けることができたと思います。

また、外的な大きなもう一つの課題は働き方改革でした。大学病院という臨床・研究・教育を行い、かつ自己の成長を望んでいる医師が多い組織に対して、働き方を変えろ、と指示することは、非常に難しいことでした。担当の病院長補佐やワーキンググループのアイディアと行動力に助けられて、なんとか対応をしました。

しかし、患者や学生のためには時間を使い、自分の研究、研修、勉強の時間が取れず、それらの質が保てているのかは課題として残っています。

そのほか、全国医学部長・病院長会議において、医師不足、医師偏在、地域医療の担当の委員会の委員長になり全国の病院長や学部長、地域医療担当教授たちと熱い議論を行ってきました。また、その縁で厚労省の検討会の構成員にもなり、全国のオピニオンリーダーたちと同席したことは、たいへん勉強になりました。

医師人生の締めくくりのつもりで病院長を終えましたが、そのときの経験をいかすべく、現在、北部地域で新病院の設立と地域医療連携の構築に取り組んでいます。今後ともご指導、ご鞭撻のほど、お願い申し上げます。

「琉球大学医学部長退任のご挨拶」

前　琉球大学医学部長　筒井　正人

皆様、こんにちは。前琉球大学医学部長の筒井でございます。このたび、田名沖縄県医師会長から沖縄県医師会報への寄稿の機会をいただきましたので、僭越ではございますが、一言ご挨拶を申し上げます。

まず初めに、田名会長には、本年1月10日の沖縄県医師会新年祝賀会において琉球大学医学部長退任・就任激励会を開催していただき、誠にありがとうございました。多くの皆様にご参列いただく中で壇上に立つ機会を賜り、光栄でした。

さて、私は、2021年4月から2025年3月までの4年間、琉球大学医学部長・大学院医学研究科長を務めてまいりました。私がその任に就いた当時は、安里哲好先生が沖縄県医師会長を務めておられました。安里先生は、熱意と実行力にあふれ、お人柄も気さくで温厚な、誠にご高徳の先生でいらっしゃいます。当時、COVID-19が蔓延し大きな社会問題になっておりましたが、安里先生は獅子奮迅のご活躍で、沖縄県におけるCOVID-19対策に多大なるご尽力をされました。また、琉球大学医学部と病院の移転に際しては、私たち大学人にとって最も重要なこととして、原材料費高騰の影響による建設費用の不足について当時の岸田文雄総理大臣と交渉していただき、110億円の増額を獲得してくださいました。お陰様で、移転事業を成功裏に完了することができました。安里先生の一方ならぬご高配に対し、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

2024年6月には田名先生が沖縄県医師会副会長から会長にご就任されました。私は過去に田名先生のご講演を拝聴したことがございますが、沖縄県医師会における活発で献身的なご活動や、東日本大震災の際に沖縄県医師会の代表として現地に赴き医療支援にご尽力されたことなどを知り、深い感銘を受けました。田名先生は琉球大学医学部医学科の第4期生で、会長就任早々、沖縄県医師会執行部と琉球大学医学部執行部との懇談会を開催して下さり、有意義な意見交換の場を設けていただきました。その際の重要な議題の一つが、沖縄県の医療における喫緊の課題である医師の地域偏在・診療科偏在の問題でした。今後、両組織のさらなる連携により、沖縄県の医師不足が解消され、過疎地域における医療の一層の向上が図られることを心より祈念しております。

私は現在、琉球大学において基礎系の薬理学講座の教授を務めておりますが、医学部卒業後13年間は内科学講座に所属し、内科認定医・循環器内科専門医として冠動脈カテーテル治療を専門としてまいりました。定年退職まで残すところ約3年となりましたが、医学部長・医学研究科長および移転事業という大任を終え、現在は医学部・医学研究科における教育・研究をさらに推進するとともに、地域医療にも微力ながら貢献すべく、一般病院での臨床業務にも力を注いでおります。沖縄県医師会の皆様には、今後もご指導・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げ、私の琉球大学医学部長退任のご挨拶とさせていただきます。

「西普天間から拓く、琉球大学病院の使命」

琉球大学病院長　鈴木　幹男

このたび琉球大学病院長を拝命するとともに、沖縄県医師会理事を兼務することとなりました、鈴木幹男です。病院長としての重責を担う今、県内医療の中核を担う大学病院の使命の重さを、あらためて強く実感しています。

琉球大学病院は、開院から約半世紀を経て、2025年1月に宜野湾市西普天間キャンパスへ移転し、新たな一歩を踏み出しました。本学はランドグラント大学として「地域に根ざし、地域のために」という精神を受け継いできました。先の大戦終結時、沖縄県に残された医師はわずか64名でしたが、医学部創設以降、医師数は着実に増え、人口当たり医師数は全国水準に達しています。こうした歴史の上に築かれてきた本院を、次の時代へ確実につないでいくことが、病院長としての私の責務です。

新病院は、旧上原キャンパスから約5.5km離れ、医療圏も南部から中部へと移りました。沖縄本島西海岸には基幹病院が少なく、本院は県内各地からの難治性疾患を受け入れると同時に、西海岸地域の医療の空白を補う役割を担います。救急・災害医療への即応体制の強化、近隣医療機関との連携による医療資源の最適化は、病院長として最優先で取り組む課題です。

新病院では、ハイブリッドER、屋上ヘリポート、ロボット手術室、術中MRIなど先端設備を整備し、再生医療や周産期医療、感染症対応にも力を注いでいます。一方で、物価高や人件費高騰、人材不足といった経営環境は厳しさを増しています。私は病院長として、DXを活用した診療・経営の可視化と効率化を進めると同時に、多職種が誇りとやりがいを持って働ける環境づくりを重視しています。

2024年には大学病院改革プランを策定し、職種や職階を越えた対話を基盤とする組織運営を掲げました。現場の知恵と力こそが大学病院を動かす原動力であり、病院長として私は、現場とともに歩む姿勢を貫いてまいります。

沖縄の医療の未来は、大学病院だけで完結するものではありません。医師会をはじめ、地域の医療機関との連携の中でこそ、持続可能な医療体制は築かれます。病院長としての立場から、県民の健康と安心を守るため、全力で職責を果たす所存です。

「風、新たに」。この西普天間の地から、琉球大学病院は再び医の物語を紡ぎ続けます。今後ともご指導、ご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

「琉球大学医学部長就任のご挨拶」

琉球大学医学部長　中西　浩一

皆様、新年明けましておめでとうございます。2025年4月1日付で琉球大学医学部長ならびに大学院医学研究科長を拝命し、間もなく一年を迎えようとしております中西浩一でございます。このたび、沖縄県医師会報へ寄稿の機会を頂戴し、幸甚に存じます。日頃より本学の教育・研究・診療活動に対し、田名会長はじめ会員の先生方から多大なるご理解とご支援を賜っておりますことに、心より感謝申し上げます。

就任以来、改めて実感しておりますのは、琉球大学医学部が沖縄の地域医療と不可分の存在として発展してきたという事実であります。高齢社会の進行、医師偏在、離島・へき地医療への対応など、沖縄が直面する医療課題は依然として多く、その解決には大学単独ではなく、地域の医療現場との緊密な連携が不可欠です。田名会長が常々述べておられる「地域の医療は、地域の医師と教育機関が共に支えるもの」というお言葉は、就任後の私にとって大きな指針であり、医学部の進むべき方向を示すものと受け止めております。

本学医学部および大学病院は、2025年3月に宜野湾市西普天間地区への移転を完了し、新

たな環境での教育・研究・診療が本格的に始動しました。移転後のこの一年、臨床実習や地域医療実習の受け入れなどにおいて、医師会ならびに地域医療機関の先生方から変わらぬご協力をいただいており、この場を借りて重ねて御礼申し上げます。新キャンパスの利点を生かした教育環境の整備が着実に進んでいることを実感しています。

一方で、就任後に見えてきた課題もございます。新施設や新体制を真に機能させるためには、教職員間の連携強化や業務の効率化に加え、教育・研究・診療の調和をいかに図るかが重要となります。また、若手医師・研究者の育成と県内定着は、沖縄医療の将来を左右する喫緊の課題であり、医師会の先生方のお力添えなくしては成し得ない取り組みであると強く認識しております。

医学科・医学研究科と保健学科・保健学研究科が同一研究棟を共有する体制は、多職種連携教育や学際的研究を進めるうえで大きな可能性を秘めています。今後、地域包括ケア、在宅医療、予防医療などの分野において、医師会や地域医療機関との協働をさらに具体的な成果へと結びつけていきたいと考えております。

教育面では、国家試験において医学科・保健学科ともに高い合格率を維持しておりますが、これもひとえに臨床の現場で学生をご指導くださっている先生方のご尽力の賜物です。学生一人ひとりが医療を担う責任と誇りを実感できるよう、医師会との連携を基盤とした実践的教育をさらに充実させてまいります。

結びに、琉球大学医学部は今後も地域の先生方との信頼関係を何より大切にし、教育･研究･診療を通じて県民の健康と福祉に貢献してまいります。本年が沖縄医療にとって実り多き一年となりますことを祈念申し上げるとともに、引き続き格別のご指導、ご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

お知らせ

日本医師会定例記者会見に関する周知

日本医師会では原則、毎週水曜日に定例記者会見を開催し、松本会長始め常勤役員が日本医師会の考えや取り組みなどについて説明しています。

その模様は下記の広報物に掲載していますので、ぜひご覧下さい。

■ 日本医師会公式
YouTube チャンネル

■ 日本医師会ホームページ
「日医 on-line」

問い合わせ先：日本医師会広報課　E-M:kouhou@po.med.or.jp

■ 沖縄県医師会公式
YouTube チャンネル

■ 沖縄県医師会ホームページ